ネットワーク NETWORK
Vol.190
2022 5 MAY
発行・編集
マッセOSAKA
公益財団法人大阪府市町村振興協会
おおさか市町村職員研修研究センター
大阪市中央区大手前３丁目１番43号
大阪府新別館南館６階
TEL 06-6920-4565 FAX 06-6920-4561
HP：http://www.masse.or.jp/
E-mail：center-tr@masse.or.jp

本号では、令和４年度のマッセＯＳＡＫＡ研修研究事業についてご紹介いたします。
また、マッセＯＳＡＫＡホームページに最新情報を掲載しておりますので、併せてご覧ください。

研究事業の紹介

研究事業では、市町村独自の政策形成の推進を目指し、広域的あるいは将来的な課題についての調査・研究を進め、新たな行政課題や政策についての提言、情報の蓄積や受発信を行います。

○ 研究会

令和４年度は、次の２つの研究会を実施します。詳細については、次号でご紹介いたします。

・働き方を「選択」できる仕組みづくりを考える研究会
・自治体財産（ハコモノ）の新たな活用方法を考える研究会
～利用できるから利用したくなる公共施設へ～

研究会の様子

○ 地方自治ゼミナール

令和４年度より、「地方分権ゼミナール」から「地方自治ゼミナール」に名称を変更いたしました。
引き続き、４つの大学院と連携して、より専門性の高い調査・研究を行います。

【大阪大学大学院法学研究科との連携】
受講生の希望により研究テーマを設定し、担当講師と10月から４か月間にわたる研究活動を行います。研究成果のプレゼンテーション発表と論文作成を通して発信力の向上を図ります。

【大阪学院大学大学院経済学研究科との連携】
公共政策に関する特定テーマを設定し、当センター前所長の齋藤愼教授をはじめ、各種分野の専門家による連続講座を通じて現実問題を考察することにより実践的能力の充実を目指します。

【大阪公立大学大学院都市経営研究科との連携】
希望する大テーマを１つ選択し、都市公共政策分野の第一人者をゲストスピーカーとしてお招きするワークショップ（３回程度）への参加を通して、公共政策が直面する課題解決のための研究を行います。

【和歌山大学大学院経済学研究科との連携】
公共政策に関する特定テーマについて研究・検討を行うことにより、実践的能力の向上を図ります。

○ 研究紀要

市町村行政における喫緊課題を取り上げ、研究者による「政策提言論文集」として発行します。また、府内市町村職員から公募した論文の中から最優秀論文を掲載します。

マッセＯＳＡＫＡ公募論文・エッセイ募集！
自治体や行政に関する内容であれば、福祉、教育、環境、行財政などテーマは自由です。ふるってご応募ください。
応募締切：令和４年９月22日（木）必着

令和４年度　新規の研修紹介

マッセOSAKAでは、これからの時代にふさわしい人材を育成することを目的とし、様々な研修を実施しています。研修はスキルアップだけが目的ではなく、他市町村の職員と共に学び、お互いの課題や情報を交換する場でもあります。皆さまの積極的なご参加をお待ちしてます！

固定資産税課税事務研修（総則）

■日　程　６月27日（月）
■講　師　公益財団法人 東京税務協会
　　専門講師　石塚　克義　氏

今まであった固定資産税（家屋・土地）の研修とあわせて、新たに固定資産税課税事務にかかる基礎として地方税法や固定資産税特有の制度などを学び、実務遂行能力の向上を目的とし、基礎的かつ必要な基本的知識の習得を行います。

（締切：5/30）

採用面接官養成研修（内部講師養成コース）

■日　程　７月12日（火）～13日（水）
■講　師　駒澤大学経済学部非常勤講師
　　採用面接.育成アドバイザー　川村　稔 氏

優秀な人材を確保するためには採用面接が重要になります。採用面接.育成アドバイザーである講師より、採用面接を取り巻く現状や、人材像に合う受験者を選考する効果的な方法などについて講義をいただきます。また、２日目は履歴書や自己PRなどの分析を含めたケーススタディや演習を通し、より実践的に学びます。

（締切：6/14）

問題解決思考養成研修　～３つの思考法を学び、実践する～

■日　程　７月28日（木）～29日（金）
■講　師　株式会社インソース
　　講師　植田　啓　氏

自治体として効果的な運営や政策形成が求められる中、様々な問題を発見し、考え、解決に導く能力が必要となります。

本研修では、クリティカルシンキング・ラテラルシンキング・ロジカルシンキングの３つの思考法についての講義、それらを用いた演習を通し、問題解決に必要な能力の総合的な向上を図ります。

（締切：6/17）

広報担当実務研修　～「伝える」から「伝わる」自治体広報の実現に向けて～

■日　程　８月２日（火）～３日（水）
■講　師　PRDESIGN JAPAN株式会社
　　代表取締役　佐久間　智之　氏

広報誌やＳＮＳ、動画など自治体の情報を「伝える」方法は多様化していますが、果たして「伝わる」広報になっているでしょうか。広報のスペシャリストである講師から、広報の基礎的な話から具体的なテクニックまで多岐にわたる知識・技術を学び、「伝わる」広報の実現について考えてみませんか。

（締切：6/22）

公民連携・エリア主導で進めるソフト事業を重視した地域づくり研修
～エリアマネジメントを基軸として～

■日　程　8月19日（金）
■講　師　和歌山大学経済学部
　　講師　上野　美咲　氏

昨年度実施した「住み続けたいまちづくり研究会～エリアマネジメントを基軸として～」の研究成果も踏まえ、エリアマネジメントの取り組みや人口減少時代に求められる地域づくりについて学びます。

（締切：7/8）

研修担当者研修（人材育成と研修企画）

■日　程　8月25日（木）～26日（金）
■講　師　人事院公務員研修所
　　客員教授　高嶋　直人　氏

人材育成は組織の運営において欠かせない重要な観点の一つです。
当研修では、自治体職員の人材育成、特に研修を取り巻く現状や効果的な手法、研修企画について学びます。他自治体の研修担当者との情報交換も交えながら、グループワーク形式の演習を通し、自らの組織の人材育成について考える機会とします。

（締切：7/14）

事業・政策のスクラップ研修
～限りある資源（モノ・人・カネ）をよりよく活用するために～

■日　程　10月14日（金）
■講　師　一般社団法人 日本経営協会
　　講師　樋口　満雄　氏

人口減少などの社会問題に対応するため、限られた資源の中でより良い自治体経営に向けた事業・政策のスクラップの重要性を学んでいただき、政策選択の能力向上や問題意識の共有を行います。

（締切：9/1）

市民と行政の協働研修　―その意味と行政の役割―

■日　程　11月22日（火）
■講　師　高崎経済大学地域政策学部
　　教授　櫻井　常矢　氏

高齢化･人口減少に直面するなかで地域運営組織（RMO）等との協働型自治体経営が各地で進んでいる。「なぜ、市民協働が必要なのか」「市民協働の課題」「市民協働を推進する上での行政の役割と手法」などについて、各地の最新動向や実践のポイントなどをご紹介いただき、人口減少時代の地域づくりに必要な知識や自治体職員としてのノウハウを学びます。

（締切：10/12）

令和３年度 研修の様子

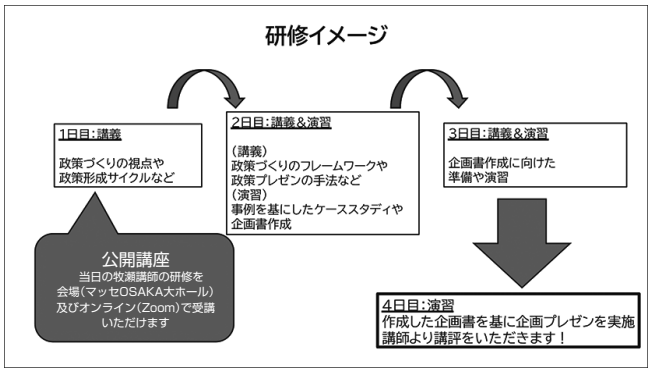
リスクセンスアップ研修

多様性を活かした職場づくり研修

「政策のスペシャリストに学ぶ！政策形成能力養成研修」を実施します！

平成28年度より５市町村をモデル団体として実施しておりました「政策形成実践研修」を今年度は新たな研修名、研修体系で４日間のインターバル研修として実施します。また、１日目の研修については公開講座として会場での受講のみではなく、オンラインでの配信も予定しております！

当研修は、講義を通じて政策形成に必要な視点や考え方、手法について学び、実際に所属団体に応じた政策企画（施策提案、事業提案）を行うことで、問題発見力や企画力、説明能力など、政策形成能力や実務遂行能力の向上を図ることを目的としております。また今回提案した政策企画を所属団体で活用いただくことも可能です。



公開講座については、政策形成に必要な視点や手法などを広く皆様に聞いていただくことを趣旨として、２種類（会場とオンライン）の受講方法からお選びいただけるマッセ初実施の研修方法になります。「今まで参加したかったけど日数が取れない！」や「企画まではハードルが高いけど、政策形成に興味がある！」などの方々はこの機会に是非ご活用ください。

令和３年度　事例研究開催報告

住民・現場目線で推進する“自治体ＤＸ”

近年社会環境が大きく変化している中で、各自治体でも職員の働き方や住民サービス向上に向けたＤＸの推進への取り組みが模索されているところです。本事例研究は、これから更に加速するであろう自治体のＤＸを単なる「デジタル技術の導入」で終わらせず、住民・職員の幸せに繋がるＤＸ施策の方向性を検討し、ＤＸの本来の目的を今一度整理し、あるべき考え方、ビジョン、課題を見つめ直す機会とするべく、オンライン（Ｚｏｏｍ）で開催しました。

当日は３部構成で、福島県磐梯町において自治体初のCDO(最高デジタル責任者)に就任され、全国の自治体へもＤＸの推進を支援されている菅原直敏氏をはじめ、実際にＤＸの推進に取組まれている自治体の皆様にご登壇いただきました。菅原氏からは、『自治体が目指すべきＤＸの姿とその実現に向けて』と題し、「デジタル技術は『手段』であって、『目的』ではない」「自治体のＤＸは『人に優しいデジタル技術で、誰一人取り残さない』こと、そして『行政、地域、社会のあらゆる分野がデジタル技術によって再構築される』ことが大切」などのお話しを頂きました。第２部では兵庫県神戸市、北海道北見市、静岡県袋井市の担当者より、庁内でのＤＸの取組みについてお話を頂きました。第３部では登壇者の皆様でパネルディスカッションを行い、導入にあたっての苦労話や今後のＤＸのビジョンなど、充実したお話しをいただきました。

受講者からは「業務改革やＤＸを推進するにも意識改革が重要であることを改めて感じました。」「自治体ＤＸとは何か、先進市の導入事例を聞くことができ大変参考になった。」など、大変好評をいただきました。

帰　任　職　員　紹　介

令和３年度末をもって派遣期間を終え、派遣元へ帰任した職員を紹介します。

長町（ながまち）　俊平（しゅんぺい）（柏原市へ帰任）

令和２年度から２年間、皆さまには大変お世話になりました。
派遣期間の２年間は、新型コロナウイルス感染症とともに過ごす形となりました。思うような活動ができず、もどかしいことも多くありましたが、一方で研修・研究事業のオンライン実施など、マッセにとっての新たなチャレンジに携わることもでき、大変光栄に思います。
また、事業運営を通して講師の方々や大阪府内･全国の市町村職員の方々、民間企業の方々などと交流を深められたことは、大変貴重な経験となりました。このことは自分にとっての貴重な財産であり、今後の業務にも活かしていきたいと思います。
マッセＯＳＡＫＡでの日々は、冗談を言い合いながら和気あいあいと働くことができ、本当に楽しい日々でした。
帰任後は、人事課に配属となりました。マッセＯＳＡＫＡで学んだことを活かしながら、２年間で培ったご縁を大切に、引き続き頑張りたいと思います。
マッセＯＳＡＫＡにいた２年間は本当に充実した期間でありました。最後になりましたが、お世話になりました多くのみなさまに心より感謝とお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

田邊（たなべ）　晃一（こういち）（忠岡町へ帰任）

令和２年度から２年間、皆さまには大変お世話になりました。
マッセＯＳＡＫＡで大阪府内の市町村のみなさまはもとより、全国の市町村のみなさまと交流できたことは今後の私の公務員人生においても大きな財産となりました。
また、マッセＯＳＡＫＡでの研修研究事業を通じて、様々な政策課題や先進的な取り組みを勉強させていただきました。慌ただしくも非常にやりがいに溢れた２年間でした。
帰任後は、産業まちづくり部建設課に配属となりました。マッセで学んだまちづくりや都市計画の知見を活かしながら、２年間で培ったご縁を大切に、引き続き頑張りたいと思います。
マッセＯＳＡＫＡにいた２年間は本当に充実した期間でありました。最後になりましたが、お世話になりました全てのみなさまに心より厚く御礼を申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願いします。

新　派　遣　職　員　紹　介

令和４年４月からマッセＯＳＡＫＡの仲間に加わった職員を紹介します。

射場（いば）　祐輔（ゆうすけ）（阪南市から派遣）

この度、阪南市から派遣で参りました射場と申します。

私は平成25年４月に入庁し、今年で10年目です。阪南市では、商工労働観光課（現：まちの活力創造課）３年、危機管理課３年、都市整備課３年、それぞれ異なった業務に携わっておりました。

マッセＯＳＡＫＡへの派遣の話をいただいたときは、楽しみと不安な気持ちがありましたが、なかなか経験できない業務のうえ、新たなことに挑戦し、さらに成長したいと思い、出向させていただく決意をいたしました。

今までとは大きく異なる業務でなかなかすぐに慣れるのは難しいですが、日々研修研究事業等の仕事に対して目的意識をもって取り組みたいと思います。また、研修等実施に対するニーズ等を十分に把握するとともに、研修を価値のあるものにしていきたいと思います。

２年間、多くのことを吸収し、さらに成長できるように頑張りたいと思いますので、みなさまよろしくお願いいたします。

河野（かわの）　由樹（ゆうき）（藤井寺市から派遣）

この度、藤井寺市から参りました、河野と申します。平成30年４月に藤井寺市に入庁し、４年間、国民健康保険の資格・賦課・給付を担当しておりました。

人事課よりマッセＯＳＡＫＡへの派遣の話をいただいたときは、今までに経験したことのない仕事に携わるので、楽しみな反面、自分にできるのかという不安な気持ちがありました。しかし、なかなか経験できない業務なので新たな仕事に挑戦し、自分への成長に繋げたいと思い、マッセＯＳＡＫＡへ出向して参りました。

研修の企画・運営というこれまでに経験したことのない業務なので不慣れでご迷惑を多々お掛けすると思いますが、新人の気持ちで、積極的に取り組み、たくさんの経験を積んで多くのこと学び、吸収したいと思っております。

２年間という短い間ですが、１日も無駄にせず、頑張って参りますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします！

異　動　職　員　紹　介

辻（つじ）　康之（やすゆき）

この３月末をもちまして、(公財)大阪府市町村振興協会を定年退職し、現在、嘱託として引き続き協会(総務企画部付)で勤務させていただいております。

私自身は昭和57年に大阪府市長会で採用され、その後、平成23年に振興協会との事務局統合(振興協会への身分移管)を経て協会職員となりました。

特に、マッセＯＳＡＫＡの関係では、平成26・27年度及び令和元年度から令和３年度までの計５年間、齊藤前所長並びに林所長のもとで、管理職として部を指揮する機会を得て、市町村派遣職員を含むスタッフに支えられながら、周年事業やセミナーの企画にも加わり、楽しく有意義な時間をともに過ごすことができ、自分自身の成長にとっても非常に良かったと思いました。

今後は、研修研究部のOBの一人として、府内市町村の広域研修研究機関としてのマッセＯＳＡＫＡの発展を願ってやみません。市町村職員の皆様には、本当にお世話になりました。今後も、マッセＯＳＡＫＡへのご支援をよろしくお願いします。

乾（いぬい）　貴久（たかひさ）

マッセＯＳＡＫＡの主任研究員着任から丸４年を務め、総務企画部に異動した乾です。思えば５年前「マッセの主任研究員の任期として５年は長い（せめて４年で新しい風を！)」、「これからは管理職といえどもプレイングマネジャーとして持続可能な職場づくりを！」と石川前事務局長に愚申し、我儘をさせていただいた４年間で有言実行が遂げられたのだろうかと自問自答する今日この頃です。吹田市の青柳さん、泉南市の中堂さん、箕面市の立田さん、富田林市の村上さん、門真市の馬上さんをはじめ、マッセの現スタッフの皆様、そして林所長、齊藤前所長、そして何よりも各市町村の人事研修担当課長様をはじめ研修ご担当者様には大変お世話になり、ありがとうございました。プロパー職員の私はまたカムバックすることもあるかと思いますが、それまで別のフィールドで研鑽し、自身を高める努力とダイエットに励むことが当面の目標です。今後ともマッセＯＳＡＫＡ、府市町村振興協会を宜しくお願いします。結びに、市町村職員の皆様、若いうちに是非一度はマッセに来て研修や研究に身をおいてください。（合掌）

西尾（にしお）　光弘（みつひろ）

このたび、研修研究部長を拝命しました。研修研究の業務について４年目を迎え、今後も市町村職員の声に耳を傾け、これまで以上に研修・研究事業の充実改善に取り組んでまいりたいと考えております。平成30年度に策定しましたマッセＯＳＡＫＡ中期ビジョンに基づく取り組みも後半を迎え、特に今後はシステム研修の実施方法を改め、会費をいただくこととなりましたが、今後ともマッセＯＳＡＫＡへのご支援・ご協力をお願いします。

私たち陽気な
修業僧
～第16回～

全国市町村国際文化研修所
「令和４年度振興協会・自治体研修機関連絡会議」へ参加してきました!!　の巻

研修研究部　　北口　あゆみ

令和４年４月25日、26日の２日間、全国市町村国際文化研修所（JIAM）にて開催された「令和４年度振興協会・自治体研修機関連絡会議」へ参加してきました。当会議は毎年開催されていましたが、近年は新型コロナウイルス感染症の影響により中止やオンラインにて行われており、３年ぶりに対面にて開催されました。

１日目は全国市町村研修財団から令和４年度の事業計画説明をいただいた後、２部に分かれての講演会が設けられました。

前半は「ダイバーシティの本質を考える―異文化コミュニケーション学からのアプローチ―」と題し、立教大学名誉教授の鳥飼玖美子氏よりご講演いただきました。鳥飼氏は、異文化コミュニケーションの視点から言語教育と通訳翻訳について研究をされています。同時通訳士としての経歴もあり、アポロ11号の月面着陸の際の同時通訳も務められた方です。「ダイバーシティは言うは易く行うは難し」であるというお話から、「まずコミュニケーションとは何か」「コミュニケーションを行う際には「コンテクスト（文化的背景と状況）」を理解しなければならない」といったお話などをいただきました。

後半はこころ元気研究所　所長の鎌田敏氏より「ウィズ･コロナ時代の組織コミュニケーション」と題し､ワークを通しながらコミュニケーションの実践についてお話をいただきました。「組織でのコミュニケーションは意識して行うもの」であり、業務連絡や指示などの「ポジションtoポジションのコミュニケーション」と雑談などの「ハート to ハートのコミュニケーション」のバランスが大切ということを改めて学びました。

２日目は、大津市の坂本地区（西教寺・旧竹林院）の視察、比叡山延暦寺の参拝をさせていただきました。視察などを通しながら、当会議に参加されている全国各地の研修機関の方と交流させていただき、貴重な情報交換の場となりました。オンライン開催の会議や研修も充実してきましたが、交流の場となると対面もいいものだなあと思いました。今回いただいたご縁をこれからの研修企画に活かしていきたいと思います！マッセでの修業はまだまだ続きます！

今号は
射場&
河野です。

★★★
スタッフの
つぶやき
Vol.31

（射場） 趣味は、一般的になりますが、旅行や映画鑑賞、グルメ巡り、サッカー･フットサルです。

コロナの状況もあり､例年よりサッカーや旅行をする頻度が少なくなっている今日この頃です。

この4月からマッセOSAKAでお世話になっていますが、今まで自転車通勤だったため、なかなか電車通勤に慣れません・・・。

これから研修がはじまりますので、しっかり準備していきます！

また、多様な研修を通じて、研修の効果として、行動変容につなげられることをめざし、企画･検討したいと考えています。そのうえで、常に研修内容を精査し、社会や受講者ニーズに柔軟に対応できるよう努めてまいります。

（河野） 初めまして。昨年末に生まれた娘の笑顔に毎日癒されている河野です！先月ごろまでは、夜はなかなか寝てくれず、寝不足な日々が続いていましたが、今は寝てくれるようになったので、元気いっぱいです！6月からは研修が始まります。私自身、緊張しまくりだと思いますが、優しい目で見守ってください。そして、たくさん研修に参加していただいて、よろしければ私の子どもの写真を見に来てください！（笑）皆様にお会いできることを楽しみにお待ちしております。

研修研究部（マッセOSAKA）のご紹介

所長の**林宏昭**です。
最近２年間、コロナ禍のなかでの研修・研究事業の展開となりましたが、オンラインの活用を交えながら、少しずつ本来の研修メニューに戻ってきています。社会のデジタル化の推進が必要とされていますが、インフラ整備とともに意識変革をバックに、ポストコロナを見据えてこれまで以上の成果が上がる研修を目指します。
マッセOSAKAに限らず、研修・研究事業は職員の対応力や発想力の向上を通じて、社会に貢献することです。職員の能力向上は、ひいては地域住民にとっても有益です。当研修所としても、新たな手法を交えながら、これまで以上に研修内容の向上と研究の発展を目指してまいりますので、引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。
最後になりましたが、感染症によって大きな影響を受けられた方々に心よりお見舞い申し上げますとともに、感染リスクの中で、市民の日々の生活を維持するためにご尽力いただいている皆さま、また、感染症と向き合って医療、看護に当たっておられる皆さまに深く感謝いたします。コロナ禍の一日でも早い収束と社会経済の正常化を祈念しております。

研修研究部の**石川**です。
約10年ぶりに研修研究部へ戻ってまいりました。
「十年一昔」とは上手く言ったもので、改めて10年前と今年度の『研修と研究』と見比べてみると、当時にはなかった研修がたくさんあり、時代の変化を実感する今日この頃です。
時代は変わりますが、「マッセの研修・研究を受講してよかった」と思っていただけるよう、10年前と変わらない気持ちで頑張りますので、よろしくお願いします。

４年目を迎え、カウントダウンが始まった**西尾**です。
今後も市町村のためを念頭に置き、研修研究を推進してまいりますので、よろしくお願いいたします。

このたび、事務局の人事異動により、総務企画部から研修研究部に配属されました**岡元**と申します。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

阪南市から派遣の**射場**です。
１年目がスタートしたところでわからないことばかりですが、一日でも早く新しい環境に慣れて、充実した１年にしたいと思います。
皆さまにおかれましては、少しでも気になる研修やセミナーがありましたら、ぜひ積極的に参加していただければと思います。今後ともよろしくお願いします。

摂津市から派遣の**山根**です。
派遣期間を２年ということで聞いておりますので、今年度で派遣元に戻るかと思います。１年目もあっという間に過ぎてしまったので、２年目は１年目よりも充実した年となるよう精一杯頑張ります。
研修に来られたらぜひお声掛けください。
今年度もよろしくお願いします。

藤井寺市から派遣の**河野**です。
派遣１年目でご迷惑をおかけすることがあると思いますが、自身も研修に参加し、多くのことを学び吸収して頑張っていきたいと思います。研修に来られた際、見かけましたら、ぜひお声がけください。よろしくお願いします！

枚方市から派遣の**北口**です。
あっという間に派遣２年目を迎えました。２年目も楽しく充実した１年にしていきたいです。今年度もよろしくお願いします～！

＊＊＊マッセ事務補助員＊＊＊

山田
今年で３年目になりました。
今年も縁の下の力持ちになれるよう頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。

奥川
今年からお世話になります。
皆さんのご迷惑にならないよう、頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。

目まぐるしく変化する時代の中で、地方行政、自治体職員が目指すべき方向性について、学識者・行政経験者などの著名人に、政策提言を頂きます。

【第30回】
帝京大学　法学部政治学科
准教授
朴井　晃 氏

自治体職員のキャリア形成に関する一考察
～政策研究のすすめ～

1．はじめに

『「口は災いの元」というが』‥という書き出しで、ネットわーク「新・羅針盤　New Compass」のあの原稿だとわかる人はいるだろうか。（多分、いないだろう。）

この書き出しは、「論文のすすめ」という、私がネットわーくに掲載いただいた小論の冒頭である。興味があれば、ネットわーくVol.166（2016年５月発行号）を参照いただきたい。執筆当時は八尾市立病院の事務局に配属されていた。そして、今回４度目のネットわーくへの登場は、現所属としてお示しのとおり、2022年４月から新天地でのスタートを切り、大学に所属している。

本稿では、私の転身をご紹介することで、地方自治体職員のキャリア形成を考える一助になればと思う。

2．ネットわーくと私

４度目の登場となるネットわーくとの関連にふれながら、私の公務員生活におけるキャリアを紹介したい。１度目の登場は、2001年である。この年に私は大きな転機を迎える。マッセOSAKA研究課に出向したのである。そして、研究課の一員となったご挨拶をすることで、ネットわーくに取り上げていただいた。また、その流れで２度目の登場は退任時の2003年のお礼の言葉であった。

マッセOSAKA在任期間中の２年間は、例えば、ネットわーくの中で行政用語を当てはめていく穴埋めクイズを掲載するなど、少し遊び心を入れながらも、読者に何かの気づきを得ていただければと考え、いくつかの企画を実現させていただいた。

ネットわーくは、マッセOSAKAと大阪府内市町村の研修担当との情報共有の重要な役割を担う機関誌であり、大切な媒体との思いで取り組んできた。

そして、冒頭お示しした３度目の登場となった羅針盤のコーナーは、昔はなかったが、現在も読者として毎号楽しみに読ませていただいている。時に様々な行政課題に対する示唆を研究者が発信され、時に地方自治体職員にメッセージを発信する玉稿が掲載されており、私の「論文のすすめ」は地方自治体職員に贈るメッセージにあたる拙稿である。そして、今回の４度目は私の転身に際し、３度目と同じく、メッセージとしてお届けしている。

3．大学教員に転身したプロセス

①八尾市での経験から

私は2022年４月に大学教員に転身した。きっかけは間違いなくマッセOSAKAへの出向でふれた研究事業に魅力を感じたことにある。まず、私のキャリア形成という意味で、1992年の八尾市入職からの経歴をご覧いただきたい。

○　入　職　後　の　経　歴	
1992～1993年度	八尾市役所入庁：企画調整部企画課
1994～2000年度	総務部職員課
2001～2002年度	㈶大阪府市町村振興協会出向（研究課）
2003～2006年度	人権文化部文化振興課 ㈶八尾市文化振興事業団一部事務従事
2007～2021年度	八尾市立病院事務局

30年間の半分（15年間）を市立病院で勤務している点に注目されるかもしれないが、私の職業人生における取り組み姿勢を決定づけたのは、企画課での経験である。

配属初日、職場に行った時のことは今でも強烈なインパクトとして残っている。机の上に、「八尾市総合計画」が置いてあり、総合計画を読むということが最初の仕事となった。

そして、新人の私にも重要なテーマを任せていただいた。例えば、1992年の第３次行革審答申を受けた地方分権特例（いわゆるパイロット自治体）制度において、主担当であったことに象徴されるが、「自治体として主体性を持つ八尾市」「個別業務の充実に向けた市政全般を見据える視点」を実感した２年間であった。

私は常に地方自治の動き、市政の全体の動きを意識するマインドを身に付けさせていただいたと考えている。また、後輩たちにはそのことを伝えるよう意識してきた。企画課での経験は何ごとにも代えがたいものであった。

②マッセOSAKAでの経験から

マッセOSAKAへの出向については、当時は珍しかった庁内公募により人選された。私は上記のような問題意識を持ちつつも、学びが足りないと感じていたこともあり、公募に応募し、出向させていただけることになった。そして、2年間の研究課での業務経験を積むことができた。とにかく、地方自治に関することは全て吸収したいと考え、業務に取り組んだ。

研究課では、ご承知のとおり、政策課題に興味を持つ大阪府内市町村職員と指導助言者となる学識経験者がタッグを組み、政策課題への提言を行う研究が任務である。

多くの研究会を立ち上げて、調査報告書を発行したが、ここでは2001～2002年度に行われた「分権時代の人材育成研究会」の最終報告（興味があれば、マッセOSAKAのホームページを参照されたい。）の編集後記で記載した、当時の研究に対する考えをご紹介したい。現時点でも、政策研究にのぞむ姿勢として共感いただけるものではないだろうか。

○　編　集　後　記　（抜粋）

研究事業は、与えられたテーマに答えは用意されていない。その答えを探すため、参加者は様々な知識や情報、さらにはスキルを身につけ（インプット）、それらを基に研究成果を報告書（アウトプット）にまとめる。まず、研究事業の目指すべきは、アウトプットとして作成する報告書のレベルをいかに高めるかである。

しかし、研究成果がどれほど素晴らしい内容であっても、それだけでは十分ではない。研究事業の目的である住民サービスの向上に資することはできないからである。このアウトプットは、業務を進める上でのインプットに活用できるものでなければ、それこそ絵に書いた餅である。だからといって、報告書そのものが時代遅れの、間違ったものでも使い物にならない。そのため、実務に根ざした先進的なものである必要がある。

③大学教員に転身した経験から

以上のような姿勢でマッセOSAKAの出向が終わった後も、私は「地方自治」をフィールドとして、取り組みを続けたいとの思いから、政策研究として自らの取り組みを著書や論文、事例報告の形で発信してきた。今回の大学教員への転身は、その延長線にあると考えている。

本小論はお読みいただいている皆さんに転身を薦めることを目的としているものではないが、どのように転身が決まったのかを聞かれることも多いので、その点を説明することで、自らのキャリア形成を考える一助にしていただければと思う。

大学教員の一部が、公募によって就任されていることをご存知であろうか。「イノベーション創出を担う研究人材のためのキャリア支援ポータルサイト」として、JREC-IN Portal（https://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekTop）があるが、私もこのサイトで公募されたものに応募したことが転身のきっかけである。興味があれば、検索をしていただきたい。

私の場合、著書等の実績に加え、実務者としての経歴等も評価の対象であったのではないかと考えている。しかし、採用理由が示されたわけでもなく、その点は不明である。

大学教員は教育者であり、研究者である。求められる点は、やはり教育･研究に対する実績であろう。厳密には、政策研究と学術研究は手法等や目的とするところが異なるため、同列に論じることはできないが、政策研究に取り組むことがキャリア形成に資することは間違いない。是非、政策研究に取り組んでいただきたい。そして、本小論がきっかけで、政策研究に取り組む方が1人でもいればと思う。（まずはマッセOSAKAの研究事業に参加してはどうだろうか。）

4．おわりに

本小論のテーマを「自治体職員のキャリア形成に関する一考察～政策研究のすすめ～」と、少し内容に比べ、仰々しいものとしているが、地方自治体職員への次のようなメッセージであると理解いただきたい。

私は、マッセOSAKAに出向したことに続き、今回も大学の公募により、新たな道に踏み出している。改めて申し上げるが、この小論は決して地方自治体職員から大学教員に転身を薦めることを目的としたものではない。

自らの地方自治に対する取り組みを振り返り、政策研究として深めることを奨励するものであり、その時に視点として、先に示した「編集後記（抜粋）」を参考にしていただきたい。そして、冒頭紹介した「論文のすすめ」を参考に論文としてまとめるきっかけとしていただき、キャリア形成の一助にしていただければ望外の喜びである。

◇ **執筆者Profile** ◇

朴井　晃

帝京大学法学部政治学科准教授

1968年門真市生まれ。1992年度に八尾市入庁。2021年度末をもって八尾市を退職し、2022年4月から現職。

単著に、『市町村のための実践！公益法人制度改革―民間が担う公益の活性化に向けて』ぎょうせい、2009年がある。共著に「指定管理者制度を利用した芸術文化政策の実現―市民とのパートナーシップによる推進」小林真理編著『指定管理者制度―文化的公共性を支えるのは誰か』時事通信出版局、2006 年、「地域医療を守る医療提供体制」稲継裕昭編著『自治体行政の領域―「官」と「民」の境界線を考える』ぎょうせい、2013年などがある。

シリーズ バトンタッチ 第187回

研修担当課の皆さんが、次々に仲間を紹介し、ネットワークを広げます。
今回は、藤井寺市の吉田さんからのご紹介で・・・

羽曳野市人事課　**仲谷　篤** さん

◆屋外での新規採用職員研修にて

藤井寺市人事課の吉田さんからバトンを受け取りました。羽曳野市人事課の仲谷と申します。平成26年度から人事課では、研修や厚生などを主に担当しています。

マッセＯＳＡＫＡの皆様や中部都市職員研修協議会の皆様には、研修は勿論それ以外の事でも、いつも様々なことでご指導・ご助力頂き誠にありがとうございます。この場を借りてお礼申し上げます。

コロナ禍の中で、集団やワーク型の研修実施が厳しいここ数年でしたが、リモートやＤＶＤによる研修にも可能性を感じているこの頃です。

さて、上の写真は新規採用職員研修の最中に撮影してもらいました。新規職員の日誌には、「研修は気付きです。知らない事に気付き、自らを改善していこうという実践と研鑽を惜しまないで下さい。」と生意気にコメントしている手前、職員に気付きを提供できる研修を実施していく努力を怠らずに、これからも楽しく頑張っていきたいです。

次回は、中部都市職員研修協議会でいつもお世話になっている富田林市の北野さんにバトンタッチさせて頂きます。よろしくお願いします。

次回は、【富田林市の北野さん】にバトンタッチ！

お知らせしマッセ ☆★各種ご案内★☆

研修は軽装受講可能！暑さ対策は万全に！

マッセＯＳＡＫＡが主催する研修は10月末日までNOネクタイ・NO上着など公務に適切な軽装の範囲で受講していただくことが可能です。

特に新型コロナウイルス感染防止の為、研修室は「窓を開放」状態にする場合があります。暑さ対策を十分にしてお越しください。

新型コロナウイルス感染防止対策について

研修やセミナーにお越しになる際は以下の取り組みにご協力をお願いします。

① **受付時の発熱の有無・体調の確認**
② **身体的距離の確保**
③ **マスクの着用**
④ **手指消毒の励行**

令和４年度研修情報見本市のお知らせ

特別研修に位置づけされる「研修情報見本市」は、タイムリーな研修企画や講師の発掘にぴったりの研修です。

人事・研修ご担当者の方は必見です！

開催日程	令和４年８月31日（水）終日
概　　要	選りすぐりの12の研修専門事業者からトレンドや“推し”の研修企画のプレゼンや講師本人による模擬研修を受けることができます。

※詳細は７月中旬に通知予定

サマージャンボ、サマージャンボミニ宝くじのお知らせ

もうすぐサマージャンボ、サマージャンボミニ宝くじの季節です。

サマージャンボ、サマージャンボミニ宝くじの収益金は、公共事業をはじめ、少子・高齢化対策、地域情報化対策などの事業に活用されており、市町村の明るく住み良いまちづくりに使われています。ぜひ大阪府内の宝くじ売り場でお買い求めください。

【発売期間】
7月5日（火）～8月5日（金）
インターネットでも宝くじが買える！
詳しくは「宝くじ公式サイト」を検索！

「宝くじ☆買うんやったら☆大阪で！」